

製品名: ERK1(5E9)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM10600**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK3
別名	MAPK3
遺伝子 ID	5594.0
SwissProt ID	P27361
免疫原	ERK1 または MAPK3 の組み換えタンパク質

背景

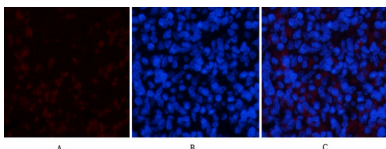
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、様々な細胞外シグナルにตอบสนองして、増殖、分化、細胞周期の進行といった様々な細胞プロセスを制御

するシグナル伝達カスケードにおいて機能します。このキナーゼは上流のキナーゼによって活性化され、核に移行して核内の標的タンパク質をリン酸化します。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。ドメイン: TXY モチーフには、リン酸化によって MAP キナーゼが活性化されるスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。酵素調節: インスリンおよび NGF に反応してチロシンリン酸化によって活性化されます。機能: ELK-1 などの多数の転写因子をリン酸化することにより、分化細胞における減数分裂、有糸分裂、および有糸分裂後機能の開始と調節に関与します。EIF4EBP1 をリン酸化します。翻訳の開始に必要です。微小管関連タンパク質 2 (MAP2) をリン酸化します。SPZ1 をリン酸化します (類似性による)。熱ショック因子タンパク質 4 (HSF4) をリン酸化します。PTM: Thr-202 と Tyr-204 が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: MORG1 と相互作用します (類似性による)。HIV-1 Nef に結合します。この相互作用により、そのキナーゼ活性が阻害されます。HSF4 および NISCH と相互作用します。

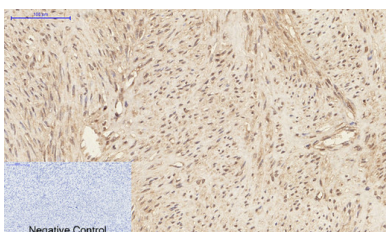
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ErbB_HER;ケモカイン;卵母細胞減数分裂;mTOR;血管平滑筋収縮;背腹軸形成;TGF-beta;軸索誘導;VEGF;接着斑;Adherens_Junction;ギャップ結合;Toll_Like;NOD 様受容体;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T 細胞受容体;B 細胞抗原;Fc ε RI;Fc γ R を介した食食;長期増強;神経栄養因子;長期抑制;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;GnRH;プロゲステロンを介した卵母細胞成熟;メラニン形成;2 型糖尿病;アルドステロンを介したナトリウム再吸収;アルツハイマー病病気、プリオン病、がんの経路、大腸がん、腎細胞がん、膵臓がん、子宮内膜がん、神経膠腫、前立腺がん、甲状腺がん、黒色腫、膀胱がん、慢性骨髄性白血病、急性骨髄性白血病、非小細胞肺がん。

画像データ



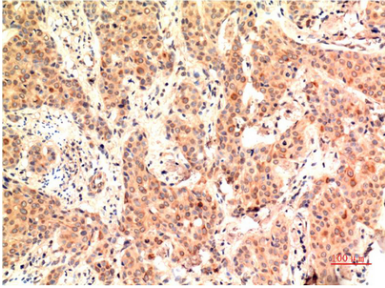
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERK1 マウスモノクローナル抗体 (5E9) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. ERK1 マウスモノクローナル抗体 (5E9) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1:200 に希釈した ERK1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した ERK1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学分析。